

## 例 言

1. 本書は興福寺第1期境内整備事業にともなう2013・2014年度発掘調査概要報告書である。
2. 調査は興福寺の委託を受けた独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部（平城地区）が、2013年6月3日から10月9日まで、および2014年9月29日から2015年1月16日まで実施した。
3. 調査は、小池伸彦・渡辺晃宏・箱崎和久・神野 恵・石田由紀子・番 光・芝 康次郎・山本祥隆・川畑 純・前川 歩・松下迪生が担当し、加藤 瑛（奈良大学卒業生）、江上 輝・間所克仁・宮本博喜（奈良大学）、大久保芳紀（奈良大学大学院）、石崎健斗（東京大学大学院）、高尾美由紀（横浜国立大学大学院）が参加した。
4. 調査にあたっては、文化庁、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会の協力を得た。
5. 本調査は、都城発掘調査部（平城地区）の平城第516次調査および第540次調査として実施したもので、各遺構には平城京左京における調査基準にしたがい一連の番号を付した。発掘遺構図の座標値は、世界測地系（平面直角座標系第Ⅵ系）による。
6. 本書の作成は、当調査部副部長・渡辺晃宏の指導のもと調査員全員があたり、全体の討議を経ておこなった。編集は、芝康次郎が担当し、各項は調査担当者が執筆を分担した。なお、4（6）は当研究所埋蔵文化財センター研究員の山崎 健が執筆した。執筆者名は執筆箇所の末尾に示す。
7. 遺構・遺物の写真は、中村一郎・栗山雅夫・杉本和樹・鎌倉 綾が撮影した。
8. 2013・2014年度発掘調査の概要は、すでに『奈良文化財研究所紀要2014』および『奈良文化財研究所紀要2015』にて報告している。本書は両報告を改めて検討した成果を示しており、これが現段階での正式な見解である。